

看護学生のための情報誌

★きらい★ ★看学生★



2016年2.3月号

発行☆兵庫県民主医療機関連合会看護学生委員会
〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目3-7
Tel: 078-303-7351 Fax: 078-303-7353
E-mail: kangakusei@hyogo-min.com



神戸協同病院



東神戸病院



尼崎医療生協病院



Contents

- P2-3 看護の現場より
- P4-5 奨学生交流会報告
- P6 炊き出しボランティア報告

- P7 ホットステーション
- P8 ナースのおすすめ



* * * * * シリーズ☆看護の現場より * * * * *



住み慣れた地域で生活まると支える看護をめざして



神戸健康共和会
看護師

大石川診療所
川崎 朋美

看護学生の皆さんに、私たちが日々看護を実践している現場での悪戦苦闘ぶりや、看護に対する熱い思いを感じていただきたく、シリーズで紹介します。今号は診療所看護師の「看護の現場」です。

「診療所ってどんなところ？」

とってもアットホームです。患者様は顔なじみが多く、たまに風邪ひきなどで新患さんが来られますが、近所の方や患者様の家族の方がほとんどです。

そして、大石川診療所の特徴は送迎車があることです！高齢の方や通院が大変な方は、事前にお約束して順番にお家まで送り迎えをします。送迎車があるから、通院できているという方もたくさんいます。

自動ドアが開いて患者様が来院したら、「おはようございます。」から始まって、定期的来院なのか、調子が悪くなったの来院か、検査のための来院か・・・看護師の目が光ります。必要時は診察前に問診し、体調に合わせてベッドに横になってもらったり、高い熱の時は隔離したり、患者様の状況に合わせて判断します。

「ほぼ毎日来院する患者様もいます！」

自分で薬の管理ができないため、来院して薬を内服



してもらう方が数名います。

その中には、1日3回のインスリン注射を行っていて、デイサービスに行かれる時間以外は来院して内服とインスリン注射を行う方もいます。でも、電話しても来られないことも・・・そんな時は自宅に訪問して来院を促しています。

以前に来院がなく自宅に訪問すると、施錠されていて中に入れなかったことがありました。消防隊が2階の窓ガラスを割って入ると、本人は熱を出して倒れていました。それ以降はダイヤル式のキーボックスに鍵を入れて玄関前に固定し、緊急時に備えています。

「定期的来院がない方は電話でフォロー」

慢性疾患で定期的内服をされている方で、予定の日からしばらく来院がない場合は電話をかけて様子を聞き取ります。転倒や体調不良で緊急入院されていることもあります。忘れてしまう方も多いため、認知症





独居の高齢者の方から「年金が減ってお金がないから、行くのやめとく。」や「どこも悪くないからしばらく（受診を）やめとく。」なんて言われることもあります。前者は年金が減っていないことを説明しても納得できません。後者は心不全があり現在は内服のコントロールで不調がないだけで、内服をやめてしまうと心不全の増悪の可能性があります。しかし、説明しても理解できないのです。このような場合は、訴えを傾聴して本人の意向に沿う努力をしつつも、医療的判断のもと対応します。

もちろん生命の危機がある場合は、緊急対応することもあります。

「多職種と連携」

近くに法人内の訪問看護ステーションとヘルパーステーションがあります。日々、患者様の情報を共有しています。また、患者様を通してケアマネージャーや薬剤師、ヘルパー、病院・施設のスタッフ、あんしんすこやかセンターのスタッフなど、様々な職種の方と接します。連携・協力し、より良い医療と看護を目指しています。

「午後は往診と訪問看護」

大石川診療所では午前は外来診療、午後は往診と訪問看護を行っています。在宅患者様は30名ほどおり、看護師は往診の介助と緊急対応に伴う24時間の宅直携帯を交代で担当しています。

訪問看護では入浴の介助や、体調観察、家族の介護相談、褥瘡処置、排便管理の浣腸などを施行することが多いです。

病院で亡くなる方が多いですが、近年は施設や自宅で看取る場合も増えつつあります。老衰や癌末期等の看取りが多く、本人の苦痛の軽減に留意しつつ家族と協力して最期のお見送りをします。

「おわりに・・・」

看護師は働く場所によって仕事内容に様々な違いがありますが、どの職場でも「自分の看護観」「患者様のための看護であること」「基本的な看護技術」は共通して必要であり、大切なことです。看護観は働くうちに自分なりの考えが出来上がってくると思います。みなさんも様々な患者様と仕事仲間と出会って、自分の看護観を育ててくださいね。



送迎車で出発！



お薬カレンダー
と血糖測定器



訪問看護セット





「冬の奨学生交流会」報告

学習会 「心に残った患者さんとのエピソード」
 交流会 「学習会の感想」
 「各学校での学習&実習状況」
 「来年の抱負」

東神戸病院では、奨学生交流会を年3回開催し、学習と交流を深めています。12月26日の交流会の様子をご紹介します。

学習会

職員より「心に残った患者さんとのエピソード」を、病棟、外来、診療所より3演題発表しました。3つのエピソードをご紹介します。

病棟より ～根気強く待つことの大切さを教えてくれたAさんからの学び～

左大腿骨頸部骨折で回復期リハビリテーション病棟に入院された70歳代の女性Aさん。下肢の病気とパーキンソン病のため、移乗動作がスローモーションのようにとても緩慢です。Aさんはいつも「いっち、にーの、さん。」と自分のリズムで声に出して移動されています。ある時、内心ひやひやしなながらも様子を見守っていると、Aさんから「いつも見守ってくれてありがとう。私は急かされたり、手伝われたりすると出来なくなるからダメなの。」と感謝の言葉が聞かれ、自分の関わり方は間違っていなかったのだと感じました。

外来より ～多職種で連携しながら、定期通院、内服管理ができるようになったBさんからの学び～

脳梗塞、失語症にてリハビリ目的で当院回復期リハビリテーション病棟に転院となったBさん40歳代男性独居。退院後外来フォローとなりましたが、イライラ不眠が続き睡眠導入剤が手放せない状態で、予約診療にも来院されないことが多々ありました。定期通院できるためにはどうすればよいかとの観点で多職種参加型のカンファレンスを開催しました。障害者自立支援法区分2を取得し、ヘルパー導入により予約診療時の送り出しや、自宅訪問での安否確認など根気強く関わった結果、定期通院ができつつあります。

診療所より ～生活丸ごと関わることの大切さを教えてくれた認知症患者Cさんからの学び～

自由気ままに生きてきたCさん80歳代男性独居。これまで認知症の兆候があったものの自覚なし、鍵の紛失をきっかけに東神戸病院「もの忘れ外来」受診となりました。3回の病院への受診同行でCさんとのつながりが深まりました。内服も忘れてしまうため、毎日診療所に来てもらい内服確認。来院しない時は自宅に訪問しました。介護保険を申請してデイサービスにも通うようになりましたが、インフルエンザ肺炎をきっかけに入院。認知症が進行し独居は困難と判断され特別養護老人ホームに入所されましたが、老人ホームに会いに行くと「師長さん！」と覚えて下さったことが、私の宝物です。

感想 & 交流会

実習を重ねて見守る看護の
大切さを学ぶ

見守る看護のエピソードを聞いて、その当時の私は、「看護は患者に何かケアを行うこと」だと思っていました。3年になって思い返した時、自分のしたい看護をやりがちななと感じました。患者さんのためになるのか、本当に正しいのか考えないといけないと改めて思いました。



患者に寄り添うことの
意味を実習から学ぶ

実習で、乗り気でない糖尿病教育入院の患者さんを受け持ったが、本人のできる運動方法を冊子にしたり、一緒に運動したりする中で、「入院してよかった」と言われたことが嬉しかったです。生活リズムを知り気持ちに寄り添うことを学びました。



生活まるごと
関わることの大切さ

入院中にお薬が飲めていても、退院してからきちんと飲めているのか？患者さんの家族背景、生活リズム、退院後の医療機関との連携などを入院中から考えてケアしておくことの大切さを学びました。



みんな同じ悩みを抱えながら
実習を頑張っている仲間

交流する中で、実習の悩みは事欠きません。「学生つくのやめてほしい」と言われたり、何もできず後悔が残ったり・・・失敗談を話すことで、みんな同じなんだなあ、私ひとりじゃない！仲間がいることに勇気づけられました。



実習は辛く大変かもしれませんが、授業で学んだことを確認する絶好のチャンスです！苦労した分だけ患者さんからの「ありがとう！」はかけがえのない宝物になります。「自分だけの忘れられない患者さん」エピソードをいっぱい作ってくださいね。

最後に、国家試験合格を祈って、合格鉛筆と滑らない靴下をプレゼントしました。
これを読んでいる卒年生のみなさん、国家試験全員合格！頑張り！

神戸の冬を支える会・炊き出しボランティア報告

12月28日から1月5日まで、「神戸の冬を支える会」が炊き出し・生活相談・法律相談活動を東遊園地で開催しました。

初日28日は兵庫民医連が担当、医師と看護師、医療相談員で医療班を設置し、ホームレスの人たちの健康相談活動を行いました。



ボランティアに参加した学生は、医学生22名・看護学生11名。職員とともに10班に分かれ、炊き出し前後でアンケート活動を行いました。アンケート活動の中から、健康に不安のある方を医療班につないだり、生活に不安のある人を生活相談や法律相談につないだり微力ながら活動しました。

アンケートに答えてくださった方たちの中には、様々な理由から人と接触したくない人・日頃話をする人が少ないからか、話をしたくて仕方ない人とさまざまでした。コミュニケーションをとることの難しさも学びました。

炊き出しのメニューは昨年も好評の「海鮮粥」で、給食共同事業の「はあもにい」が担当してくれました。

私たちもホームレスの人達と同じものをいただき、とってもおいしかったです。

午後からは、医系学生の交流会を行いました。医療相談員を講師に「格差について考える」の講演を行い、実際の相談活動の中から事例を通して、格差社会の何が問題なのかを考えるよい機会となりました。短時間でしたが意見交流も行いました。「様々な社会的事情の中から、ホームレスになっている人達がいること」「生活保護を申請することを拒否して路上生活をしている人」「そのような生活の中から健康を害しているにも関わらず医療機関にかかれない人・かかろうとしない人たちがたくさんいること。」……

医療人として病気の人たちと接していく中で何を観察し、知識として持たないといけなのか、いろいろ考えさせられた1日でした。

【神戸の冬を支える会とは？】

阪神淡路大震災では、簡易宿泊所や路上で生活しながら港湾などで日雇い仕事をしていた人々の多くが行き場を失いました。住居がないことで被災者と見なされず、避難所を追い出されたり、食料が支給されなかったりしたといわれます。

同会は1995年11月に結成。翌月、東遊園地に「冬の家」と名付けた大きなテントを張り、大みそかは50人がそこで過ごしました。以降、年末年始に必ず冬の家を開き、生活困窮者を支えています。

ほっと Station☆

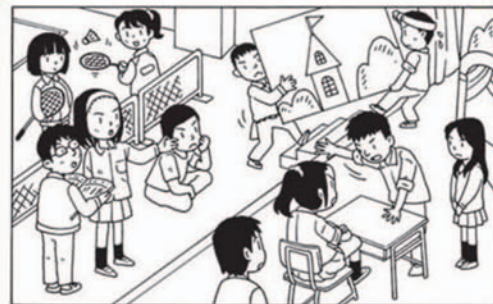
いよいよ春の日差しになってきましたね。新学年を迎える人も、卒業して看護師として新たなスタートを迎える人も、季節の変わり目の体調管理に気をつけて春を楽しんでください。



正解者から抽選で5名の方に図書カードをプレゼントします。(返信ハガキをご利用くださいね)

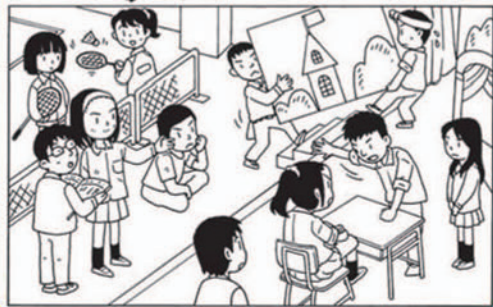
12・1月号クイズの答え

1. 左奥の子のマフラーの先
2. その子の横の戸
3. 左手前にあるカップの取っ手
4. 中央でゲームをしている子の髪留め
5. どんぶりの中のスープ量
6. 中央奥でウインクしている子の左手親指
7. 右下の消しゴムの位置



7つのマチガイ

[問題]上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります！どこでしょう？(作・野上和彦)



読者のつづやき

研究発表終わり、とりあえず一段落！あとは国試にむけて勉強あるのみ！！ 保助看ぜんぶ合格するぞー(^.^)/

(ペンネーム snow)

実習も折り返し地点をすぎましたが、これが終わったらさらに忙しい助産師課程がまっています。不安ですががんばって乗り切りたいです。

(ペンネーム りんご)



ナースのおすすめ



尼崎医療生協病院
産婦人科病棟
川村 恵津子



宝塚歌劇の観劇をお勧めします！

私が宝塚歌劇に出会ったのは大学1年生の時。授業の一環として、初めて観劇しました。それ以来、華やかで夢のような世界に癒しを求め、時間があれば宝塚へ足を運びます。宝塚歌劇団は、花・月・雪・星・宙の5つの組から成り立ち、出演者は女性のみというとても珍しい劇団です。見どころはたくさんありますが、なんといっても男役です！現実にはない「こんなこと言われてみたい！されてみたい！」という女子なら一度は憧れる場面がたくさん詰まっています。少し現実を離れて夢を見るにはうってつけです。



5つの組が約1か月ごとに公演するのですが、私はすべての組の公演を1回は観劇します。(できれば2、3回観に行きたいところです。笑) お気に入りの人を双眼鏡で追いかけたり、物語や衣装に注目してみたり、オーケストラの生演奏に注目してみたり…と楽しみ方はそれぞれですが、観劇した後はほどよい疲労感と余韻に浸りながら阪急電車で帰ります。気に入った公演は、観に行くだけでは飽き足らず、DVD や CD を買って家でも楽しみます。

休日は宝塚に行ったり、家でDVDを見たり、自分の好きなことをしてリフレッシュして、お仕事へのエネルギーをチャージしています。

